



AI教材「アタマプラス」を使って学習する生徒（神戸市のAIホロン神戸学園都市教室）

人工知能（AI）が教え導く「AIコーチ」が広がってきた。思考パターンや体の動き、弱点を分析し、個々の特徴に合わせた改善法を助言。精度も徐々に向上し、人間のコーチを補助する形で学習塾やスポーツ、職場などで力を発揮し始めている。

「ここを意識して」

「やった!」「ここを意識すれば似た問題も大丈夫」。タブレット画面に表れた「目標達成」の文字に、生徒が小さくガッツポーズした。脇に立つ先生と言葉を交わし、すぐ次の問題に挑む。

6月上旬の週末、AIホロン神戸学園都市教室（神戸市）で中高生がタブレットに向かって勉強していた。普通の教材と違うのは、「アタマ先生」と呼ぶAIの存在だ。

解答にかかった時間などのデータから一人ひとりのつまづきを解析し、原因を探る。弱点を克服できるよう選んで問題を出し、講義動画を流す。岡村祐汰さん（16）は「前は自分の苦手がどこか分からなかった。これなら効率よく勉強できる」と笑う。

アタマ先生が教えるのは生徒だけではない。

「A君は解答時間が標準の倍以上」「B君が2次方程式を解いた。褒めてあげよう」。人間の先生のタブレットでは生徒の状況がひと目で分かる。声をかけるタイミングを教えてください。

この教材で2週間学んだ生徒は、センター試験の数学の得点が平均5割上昇した。駿台グループやZ会など導入が相次ぐ。教材を手がけるat

塾・スポーツ、先生はAI

人間コーチに変革迫る

AIが助言する仕組みは健康管理の「FINC（フィンク）」や資格試験学習の「AIマスター（ベータ版）」など続々と生まれている。ライツは農業や工場技術者のワザを次世代に伝えるAIも研究。楽器演奏や写真撮影のコツ、医療といった分野も可能性がある。

文字や音声でAIと対話するサービスも普及。自治体への問い合わせに対応する「AIスタッフ総合案内サービス」は埼玉、県市、静岡県袋井市などが導入した。矢野経済研究所（東京・中野）は市場規模が2017年で11億円、22年には12倍の迫られる。（河野俊）



膨大なデータを分析し、過去の傾向から最適解を導き出すAIは、コーチ役にぴったり。活躍の場は職場やスポーツにも広がってきた。

職場でも活躍

藤田観光が運営する東京ベイ有明ワシントンホテルはビジネスコーチ（東京・千代田）の「AIコーチマイコ」を導

筑波大女子バレーボール部はAIコーチシステムを活用する（茨城県つくば市）

川上雛葉選手（21）は「一つ一つの動きについて考えるようになった」と話す。中西康己監督も「選手が指示をどう受け止めたか分れば指導しやすくなる」と期待する。

AIが進化すれば、指導はますます効率化しそうだ。

個人の弱点分析、改善促す

入。「仕事のやりがいはい？」
「悩んでいた残業、その後どう？」などキャラクターと対話しながら、AIが社員の考え方を把握していく。

宿泊予約担当の中森遼さん（28）は「AIコーチとの対話は新鮮。もっとバリエーションが増えれば面白そう」と話す。上司への相談のきつかけにもなり「若手との距離を縮めるツールとして有効」桜井浩幸総支配人。

経験知がものをいうコーチングでは、AIは大きな可能性を秘めている。

「このプレーは守りの意識が欠けているのでは」。選手の動きをAIが解析して、コーチに注意を促す。AIベンチャーのLIGHTZ（ライツ、茨城県つくば市）が筑波大学女子バレーボール部などの協力で開発を進めている「ブレインモデル」だ。

一つ一つのプレーについて選手が何を考えていたのかを聞き、AIに記憶させていく。経験に照らして専門家が選手の状態を分析し、これも記憶。データが蓄積すれば「こういう状態の選手にこんな指示を出したらプレーがこう変わる」などが予測できるようになるという。